

金沢大学 特定研究推進プログラム<認知科学> -認知科学セミナー-

「言語理解とメンタル・シミュレーション: Sato & Bergen (2013)」

ヤゴ・カンボス
(金沢大学人間社会環境研究科)

概要

近年、脳の認知活動と身体から脳に伝わる情報の関係を探る「具現化された認知」(Grounded cognition)の研究が盛んに行われている。記憶、知覚、運動神経などと認知の関係が多く指摘されている中、言語においても身体認知と言語処理の関係の解明が進められている。

その中の重要な理論の1つに言語理解のメンタルシミュレーション説がある。人間が言語的発話を理解する時には、発話が描く場面を聞きながら（または読みながら）、脳内で無意識にその場面を想像して視覚的に再生している。さらに、その脳内での視覚的な再生の成功が言語理解の成功に等しいという仮説である。

英語を用いた研究では、言語の文法や語彙が脳内再生の詳細に影響を与えることが報告されている。例えば、二人称代名詞の「you」から始まる文を読んだ場合は、聞き手が参加者になる脳内再生につながるのに対して、一人称や三人称の文の場合は、聞き手が直接参加しない、観察者としての視点を持った脳内再生につながるという研究結果が報告されています。

今回発表する Sato & Bergen (2013)は、人称と脳内再生の視点の関係を、日本語を用いて調査した研究である。日本語は英語と違い、代名詞を使用しない傾向が強い。今回の勉強会では、Sato & Bergen (2013)の内容を報告する。また、彼女らの実験の内容や手続きには調整可能なところが多く、日本語と身体認知に関する研究は多くの可能性を残しているということを指摘する。

日時：2014年7月22日(火)・18:10～(1時間程度を予定)

場所：場所：人間社会1号館1階会議室(旧文学部会議室)

Reference

Sato, Manami and Benjamin K. Bergen (2013) The case of the missing pronouns: Does mentally simulated perspective play a functional role in the comprehension of person?, *Cognition* 127: 361-374.